

公益財団法人発酵研究所 学会・研究部会助成

公開シンポジウム

「微生物リソース整備とその利活用：現状と今後の展望」

要旨集

日時：2024年3月12日（火）10:00-17:00

開催場所：東京国際フォーラム ホールD5



主催：日本微生物資源学会

協賛：株式会社エヌ・ティー・エス



株式会社 **エヌ・ティー・エス**
理工系専門書出版

「微生物リソース整備とその利活用：現状と今後の展望」

概要：

微生物とそれを取り巻く環境を研究する上で、メタゲノム解析に代表されるようなゲノム情報の解析は一般的になってきました。一方で、ゲノム情報から推定される新たな機能などを検証する場合に、生きた微生物の重要性が改めて再認識されていると思われます。微生物は細菌やアーキアを含む原核生物、糸状菌や酵母などに代表される真核生物と、多様な系統によって構成されています。従来から研究者のニーズにあった様々な微生物リソースが微生物保存機関を中心に整備されていますが、今日ではその整備状況も時代とともに変化してきているのではないのでしょうか。また、微生物リソースの活用のされ方も多岐にわたり、今後、新規リソースを整備する上で参考となるでしょう。

この度、本学会前会長の大熊盛也氏が監修した書籍「微生物資源の整備と利活用の戦略」が出版されました。そこでこの機会に、本研究分野を支える微生物保存機関の微生物リソースの整備状況、そしてユーザーである研究者の方々から微生物リソースの利活用について話題提供をいただき、今後の微生物保存機関の在り方、その利活用などを考える場になればと思い、本シンポジウムを企画いたしました。

公開シンポジウム実行委員会一同

公益財団法人発酵研究所 学会・研究部会助成 公開シンポジウム
「微生物リソース整備とその利活用：現状と今後の展望」
プログラム

10:00～

公開シンポジウムを開催するにあたって
矢口貴志（千葉大学真菌医学研究センター）

10:05～

矢口貴志（千葉大学真菌医学研究センター）
「病原真菌リソースの特徴とその利活用」

座長：村松由貴

10:40～

加藤真悟（理化学研究所バイオリソース研究センター）
「理研 BRC-JCM におけるアーキア・極限環境細菌リソースの整備」

座長：宮下美香

11:15～ 休憩（10分）

11:25～

木下 浩（製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター）
「NBRC のコレクション業務 -産業有用微生物の整備-」

座長：飯田哲也

12:00～ 昼食（1時間15分）

13:15～

杉山峰崇（広島工業大学）
「究極のモデル真核微生物「酵母」のリソースセンター：NBRP 酵母」

座長：高島昌子

13:50～

藤原大介（キリンホールディングス株式会社）
「公的微生物バンクを活用した免疫機能性乳酸菌の発掘と事業化」

座長：石田達也

14:25～

栗原 新（近畿大学）
「日欧ヒト腸内常在菌叢最優勢 51 種の一斉培養システム」

座長：坂本光央

15:00～ 休憩（15分）

15:15～

荒井 緑（慶應義塾大学）
「病原真菌と動物細胞の共培養による共培養特異的化合物の取得，およびその産生メカニズム」

座長：矢口貴志

15:50～

蓮沼誠久（神戸大学）
「微細藻類・シアノバクテリアを利用した CO₂ からの直接物質生産」

座長：河地正伸

16:25～

公開シンポジウムを閉会するにあたって
大熊盛也（理化学研究所バイオリソース研究センター）

16:30～ 情報交換会（17:00 まで、飲食なし）